第1回 総合計画審議会 会議録

1 会議名

第1回 総合計画審議会

2 開催日・出席者等

開催日時 令和元年8月29日（木） 午後1時30分から午後3時13分

場所 須坂市役所本庁舎3階305会議室

3 出席者

(1) 委員

遠藤 守信 委員、高野 健光 委員、土本 俊和 委員、遠藤 守 委員、
寺田 克 委員、西原 秀次 委員、二夕村 朝比古 委員、永井 康彦 委員、
山上 久子 委員、春原 博 委員、高橋 洋子 委員、永田 繁江 委員、
本藤 浩史 委員、竹前 美枝子 委員、川口 千春 委員

（欠席）神林 利彦 委員

(2) 市長

(3) 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民環境部長、社会共創部長、産業振興部長、
まちづくり推進部長、水道局長、消防長、教育次長、議会事務局長、会計管理者

(4) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 配布資料

須坂市総合計画審議会委員名簿【資料1】

総合計画審議会条例【資料2】

第六次須坂市総合計画・前期基本計画策定要領【資料3-1】

第六次須坂市総合計画・後期基本計画策定委員会設置要領【資料3-2】

総合計画策定ワーキンググループの役割、取組内容等について【資料3-3】

第六次須坂市総合計画・前期基本計画策定スケジュール【資料3-4】

第五次須坂市総合計画 基本構想・後期基本計画冊子（資料番号なし）

須坂市人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略冊子【資料4】

第六次須坂市総合計画 市民総合意識調査 調査設計書等（調査票、情報冊子）

【資料5】

第六次須坂市総合計画策定にかかる人口動向および基礎調査結果概要【資料6】

参考資料（須坂市関連計画、未来予測レポート等）【資料7】

5 協議状況（会議事項）

(1) 開会

政策推進課長

ただいまから第1回 須坂市総合計画審議会を開会いたします。

しばらくの間、進行役を務めます政策推進課長の清水秀一と申します。よろしくお願いいたします。

なお、神林委員から欠席の連絡をいただいておりますのでお知らせいたします。

審議会における審議内容等については後日議事録を作成し、ホームページ等で公開をさせていただきます。これに伴い、議事録作成のため会議内容については録音をさせていただきますので予めご了承ください。

(2) 委嘱状交付

政策推進課長

委嘱状の交付でございますが、本来であればお一人ずつ手渡しをさせていただくべきですが、時間の都合上、大変申し訳ありませんが、お手元資料と併せ、置かせていただきました。任期については本年と来年にかけて総合計画策定をすすめてまいりますため、来年12月末までを任期とさせていただいており、おおむね年4～5回程度の会議を予定しています。よろしくお願いいたします。

政策推進課長

続きまして、市長の三木よりあいさつを申し上げます。

(3) 市長あいさつ

市長

本日は第1回総合計画審議会を開催しましたところ、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、公私ともご多忙の中、市で最重要となる審議会委員をお引き受けいただきましたことにも感謝申し上げます。

須坂市総合計画審議会は、須坂市の開発、発展に関する将来構想及びこれに即する長期計画に関する重要事項について市長の諮問に応じて審議をいただくもので、条例に基づき設置されるものです。学識経験者、公募による市民、その他市長が必要と認める者の16人以内で組織することとされています。

第六次総合計画基本構想・前期基本計画策定の背景について申し上げます。2011年度を開始時期とする現行の第五次総合計画・基本構想が2020年度で終了します。第五次の策定時には、今回も委員となっただいている遠藤守信先生に審議会会長として、また土本俊和先生には審議会委員として、計画策定に多大なるご尽力をいただきました。第五次では「一人ひとりが輝き、磨かれた「ほんもの」の魅力あふれるまち 須坂」を将来像に掲げ、10年計画に沿って、これまで概ね計画通りに市政運営を進めてくることができた。改めて感謝申し上げたい。

しかしながら、現行の基本計画策定時の5年前には想定できなかった社会情勢の変化があります。一つ目は人口の減少です。須坂市の総人口は2015年に50,725人でしたが、その後も減少が続き、2030年には44,571人となる推計です。高齢化率は2015年に30.4%

ですが、その後も上昇が続き、2030年には34.6%となる見込みです。人口の自然減の影響から2050年をピークに高齢化率は減少に転じますが、それまでは高齢化率に比例し、社会保障費などが増加する見通しです。

二つ目は厳しい財政状況です。市では行財政改革チャレンジプランに沿った改革を進めていますが、税収がなかなか伸びない中、基金残高（貯金）は減り、市債の返済額は横ばいの厳しい財政状況がこれから続く見通しです。行財政運営については、最大限の努力をしていますが、こうした基本的方向を踏まえながら更に検討していく必要があります。一方、社会変化や市民ニーズに対応する新たな政策へのチャレンジも進めていく必要があります。以上から言えることは、「市税や保険料などを負担する人は減少するが、税金などで行われるサービスを必要とする人は増えていく」ということです。

皆様すでにご存知のとおり、米中関係をはじめとする国際的な問題も今後大きな課題となることが言えます。

付け加えますと、先日、四平市との友好都市締結20周年の記念式典に参加してまいりましたが、中国は教育熱心であると感じまして、国が進歩を続けてきたのは教育改革の影響も大きいと感じました。こうした教育の観点も大いに遠藤先生にはご教示願いたい。

策定過程での市民参加についてですが、総合計画を職員のみならず市民の皆さんにとっても、協働・共創のまちづくりの指針になるものとしたと考えています。後ほど、事務局からも策定方針について説明させていただきますが、今回の市民総合意識調査では、須坂市の現状について資料を同封し、厳しい財政状況や将来見通しについて理解を深めていただいた上で、将来を担う一人の市民としてどう考えていくか、「自分事」としてお聞きするような調査方式とさせていただきました。

須坂市の場合は市民の自主的な取り組みやボランティア活動が多く行われています。市民の自主的な取り組みと行政の適切なサポートが両輪となり、厳しい将来を乗り越えていけるものと考えています。

市民アンケート・インターネットアンケートなども実施しており、各地域で開催の地域づくり市民会議でも周知し意見を募集しているところです。このような取り組みや策定状況を、あらゆる機会を通じ公表し、策定過程の中で市民の皆様の声を聴いていきたいと考えています。

今回の総合計画策定にあたっては、

- ・行政の最上位計画にふさわしい「わかりやすい」計画
- ・的確な現状分析と須坂市の強み・弱みを捉えた実践的かつ実効性の高い計画
- ・あるべき将来像から優先順位を明確にした経営ビジョンに立った計画
- ・市民共創を一層推進するための計画
- ・計画策定後の実効性を十分に意識した計画

を念頭に策定を進めてまいりたいと考えています。

庁内では部長級職員で構成する策定委員会のほか、今回の策定での新たな取り組みとして若手職員の策定ワーキンググループを組織し、実務的な課題を十分に踏まえ、将来の姿のあり方について職員自身が「自分事」として考えるような取り組みをしてまいりたいと考えています。ワーキンググループは将来を担う若手職員の育成という点はもちろ

ん、職員が市民の皆さんのお話を直接聞いていく中で様々な課題を発見していきたいと考えています。

現行の第五次総合計画・後期基本計画で答申では、「時代の変化に柔軟に対応しながら（中略）、市民と一体となった積極的な取組みが行われることを願い、将来にわたって住みよい、安心して暮らせるまちづくりの実現を望みます。」との答申をいただいています。

この内容を受け継ぎつつ、次期計画においても市民の皆さんも当事者として知恵や力を出し合い、共創の理念により、急激な時代変化に十分対応し得る、新しい時代のまちづくりの構想となるよう策定作業をすすめていきたいと考えています。

皆様におかれましては、たいへんお忙しいこととは存じますが、これからの市政全般にわたる基本的な計画となります総合計画の策定にあたり、お力添えを賜りますようお願い申し上げます、開会にあたりましてのお礼とお願いのあいさつとさせていただきます。

(4) 委員、幹事及び書記の紹介

政策推進課長

最初に総合計画審議会委員の皆様をご紹介します。

名簿を配付してございますので、ご覧いただきたいと思えます。

—【資料1】に基づき委員紹介—

以上の皆様でございます。

続きまして、幹事及び書記から名簿順に自己紹介を申し上げます。

—【資料1】に基づき幹事及び書記自己紹介—

(5) 会長選出

政策推進課長

次に、会長の選出に入りますが、お手元に配布しました須崎市総合計画審議会条例第5条第1項により、審議会の会長は会員の互選となっております。また、同条例第6条の規定により、初めて審議会を開催するときは市長が招集することとなっておりますので、しばらくの間、市長が議長となって進行させていただきます。

市長

会長を選出いただく間、しばらく議長を務めさせていただきます。

会長は会員の互選となっておりますが、どなたか案やご推薦の動きがありましたらと思えますが、いかがでしょうか。

委員

発言の機会をお願いします。それぞれ委員の皆さんは識見も高く専門性も高い方ばかりですが、やはりこの場は第五次総合計画でも審議会をお取りまとめいただきました信州大学の遠藤守信先生をお願いしたいと思えますがご賛同をお願いします。

市長

ただいま、委員さんから信州大学の遠藤守信委員さんをご推薦とのご意見がございましたが、ご異議ありませんか。

—「異議なし」の声。賛同の拍手あり—

それでは皆様のご推薦によりまして、大変お忙しいところ恐縮ですが、会長は遠藤委員さんにお務めいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

遠藤先生、ご挨拶をお願いします。

遠藤委員

会長に就任いたしました信州大学遠藤でございます。大変重責に感じているが、委員各位のご指導ご協力を得ながら第六次総合計画の答申作成を進めてまいりたい。何卒皆様方の協力をお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。

(6) 第六次総合計画策定の諮問

政策推進課長

ありがとうございました。続きまして、第六次須坂市総合計画、同前期基本計画の諮問をしたいと思っております。

—市長が諮問書朗読し、会長へ手渡す—

政策推進課長

それでは、これ以後の会議事項につきましては、会長に議長を務めていただき進行していただきたいと思っております。

なお、市長は公務のためここで退席させていただきますがご了承願います。

それでは会長、よろしく申し上げます。

(7) 会議事項

① 会長職務代理者の指名

会長

会長職務代理者の指名についてですが、事務局から説明をお願いします。

政策推進課長

会長職務代理者は須坂市総合計画審議会条例第5条第3項により、会長が指名するとなっておりますので会長からご指名をお願いします。

会長

私のほうでは案がないのですが、事務局のほうで腹案はありますか。

政策推進課長

事務局腹案としましては西原委員さんをお願いしたいと考えております。

会長

委員さん、須坂で広く活動をされており適任と考えます。西原委員さんぜひお願いします。

—全委員から賛同の拍手あり—

会長

それでは会長職務代理者を西原委員に決定させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

② 第六次総合計画・前期基本計画策定について

会長

最初に事務局から説明をお願いします。

政策推進課長

総合計画策定につきましてご説明前に、配付いたしました資料の確認をさせていただきます。皆様に配布させていただきました資料としては、次第に配布資料として記載したのものになります。

— 一次第記載の「配布資料」について確認 —

以上ですが、不足の資料がありましたらお申し付けください。これら冊子は今後策定の際に参考となる部分もあると思います、今後開催の審議会におきましても大変お手数ですが資料としてお持ちください。配布資料の説明は以上です。

会長

それでは進行を続けます。先程市長の挨拶にもありましたが、総合計画を市民の皆様にも夢や活力を与え、素晴らしい地域を創り出していくためのバイブルとすべく重要な会議となる。ぜひ委員の皆様のお知恵を拝借し、立派な答申を目指していきたい。皆さんの活発な意見をお出し願ひたい。

それでは事務局のほうから説明をお願いします。

副市長

— 【資料3-1】について説明 —

策定ワーキンググループの詳細と、市民総合意識調査の詳細については引き続き事務局から説明をさせていただきます。

政策推進課長

— 【資料3-2】 【資料3-3】 【資料3-4】 【資料4】 【資料5】
について説明 —

会長

基本的には須坂市の特色を把握した上で、市民一人ひとりが幸せな生活ができることを願って計画を策定するため、詳細な市民総合意識調査を実施していただいている。一つ気になったのは2030年のありたい姿を考える際のいわゆる将来都市像を考えるにあたり、市民の生活スタイル等は10年間で相当変化する。将来を的確に見据えた上で計画を策定する必要がある。単なるフィーリングではなく統計情報なども十分に加味し、バックキャスト方式を効果的に用いて将来計画を考えていく必要がある。果樹振興にも影響がある環境問題や温暖化などについてもきちんと考えていく必要がある。高齢化の問題も深刻ではあるが、大都会は地方よりもさらに高齢化問題が深刻。都会と比べると須坂市については高齢化を嘆く段階にはまだない。須坂市をはじめ、健康意識がしっかり定着した地域は元気な高齢者も多い。いい食べ物や水といった良質な生活環境の影響もある。そうした地域特性も十分加味し、アピールできるような計画策定を進めることが重要。地域の医療機関を核とした健康増進の更なる取組みも必要である。

委員

委員会では事務局案を委員が審議して決めるという形式だが、ぜひ委員が個々に持っている意見も十分考慮し策定を進めていただきたい。

ここ10年大きく時代が変化してきた。これから10年も大きな変化が見込まれる。本日資料として添付いただいた各種推計データも必ずしもこの通りになるか分からない。マイナスな話をすれば、須坂市も少子化が更に進み高校がもう一ついらなくなると言われている。須坂市の人口構成では企業も成り立たなくなる。プラスな話をすれば、高齢者が80歳くらいまで働くようになる時代が来るだろう。予定されているインター周辺開発で大きな雇用が生まれるとなると市の将来想定も大きく変わってくる。事務局の説明にただ承認ということであれば我々委員も必要がない。皆さん、それぞれの専門分野でお持ちの情報や意見を大いに出し、将来夢の持てる須坂市を一緒に考えていけるとよい。医療もしかり、特色があれば日本全国から患者が来ると考えている。

会長

第五次総合計画でも活発に委員から意見を出してもらい計画策定を進めてきた。

第五次計画の時も人口減少の問題は提起されていた。健康な高齢者が多い須坂市は高齢者が労働力として活躍することで労働人口の減少が防げるという意見も意見の中で出され、事務局が作成した資料ももとに委員意見を十分に反映させながら計画策定を進めてきた。今回も同様な形で大いに議論を深めたい。

副市長

総合計画策定にあたっては総合計画策定委員会や策定ワーキンググループを中心に原案を作り上げていきたい。それを叩き台として審議会では十分な議論をお願いしたいと考えている。

高齢人口のとらえ方や生産年齢人口の考え方についても今後計画策定を進める上で十分議論をしてみたい。雇用、産業、交通への影響などインター周辺開発の影響についても十分組み入れた計画にしていくべきだと考えている。

会長

委員ご指摘のとおり、今後示される事務局原案はあくまで案。審議会は原案を承認する場ではなく活発な意見が交わされるべき場。「画竜点睛を欠く」という言葉があるが、事務局原案に輝くような黒々とした目を入れて初めて意味がある。体裁が整ったきれいな原案ではなく、委員の発想を十分取り入れ、市民に感動を与えるような計画にしていきたい。「人生100年時代」と言われるように、高齢者活用という視点も大変重要。高齢者活躍が進めば消費活性化が進み、地域経済も潤うことになる。そうした意味で地域の企業協力も大切ではないか。

委員

人口減少問題は全国どこでも一緒の悩みである。観光や産業という点では「短期的移民」としての外国人の受入れも一つの重要な視点である。観光という点も人口減少に打ち克つための一つの要素。観光を中心に須坂の魅力を外部に発信していくことも、今後の移住施策や人口減少対策には重要ではないかという認識ももって計画策定を進めていただきたい。

会長

観光地に行くよりも、そこに暮らす人々の日常生活を見るほうが楽しい場合もある。須坂市の場合は散策をしてもらい日常生活を見てもらうことでも十分楽しめる街である。そうした視点も大切にしていきたい。

委員

元気な高齢者の街もちろん良いが、まずは子供を須坂市で産んでもらえる環境を作ることが必要と感じる。子供は何かすれば女性は産めるし、産みたいと思っている。けれども経済面を中心に、その環境がなかなか整わない。多子世帯が市内に転入する場合の補助など、オリジナリティのある施策の打出しや、一回きりとならない継続した女性向けの施策にも目を向け、女性が勇気を出して「もう一人子供を産むか」と思える環境を考えていくことも必要ではないかと考えている。

会長

子育て施策は自治体様々である。打ち出す施策の特色によっては出生率等の状況を大きく変えていける可能性がある。皆で知恵を出し合い、子育て施策の面でも何か須坂の特色を打ち出していきたい。

委員

愛知県の日進市は30年前に須坂市と人口がほぼ同数であったが、この30年間で人口が須坂市の倍になった。ところが日進市は市職員数が変わっていない。愛知と須坂を行き来して感じるのは相当な地域差があり、住民の生活感や職員の忙しさが全く異なるということ。このことから分かるように、うまくいった他の地域を真似するという考えではなく、それぞれの地域特性を十分に加味した開発やまちづくりが必要ではないかと思う。地方創生の時代にシフトする中、地域に住んでいる皆さんが自分達の努力でどうまちを良くしていくか考えることは重要。若手職員を中心とした策定ワーキンググループを中心に地域の人と連携した計画策定については大変重要な意味がある。

ICTの分野において須坂市はオープンデータの取組みを積極的に進め、ゼロから県内の牽引役を担える自治体となった。短期間であってもユニークなニーズやシーズを外部に発信していくことで大きな成功になることを実感している。市、企業、地域が一体になった良い取組みを今後考えていけると良い。

会長

高度情報化社会の中で、地方にいても情報から取り残されることはなくなった。この点で都会と地方は同じレベルになった。そういう意味では須坂市をはじめ長野県は都会の人にとって居住候補地域として大きな可能性がある。

ところで都会から長野に来ると病気になる人がいる。なぜか。それは長野の医療機関への信頼性が高く、長野にきて病気の治療を始めようとする人がいることの裏返しであると言われている。この点についてはどうか。

委員

長野県の医療機関は都会の医療機関に比べてアクセスが大変良い。

本日の【資料5】に添付されているような「目指すべき良いシナリオ」にある市にとって良いスパイラルが実現されていくことを考える中で、地域の医療や医療機関がなしうることについて皆さんと一緒に考えていきたいと考えている。

県立医療機関は政策医療を担っているが、地域の支え合いで医療や健康づくりの体制を一緒に考えていきたい。

ここから先10年間という視点において、医療面では2年に一度実施される診療報酬の改定がもたらす医療体制への影響も少なくないため十分注視していきたい。また、高齢化により疾病構造なども変わってくるため、時代に見合った医療の供給体制を常に考えていきたいと思っている。

会長

信州医療センターには地域の中核医療機関としてしっかり取り組んでいただいている。それが市民の安心につながっている。市民は気付かないかもしれないが、日頃から高いポテンシャルを持った医療体制の中で生活できていることも市民に知ってもらう必要がある。

委員

自分も高齢になる。10年先のイメージを考えながらの計画策定は非常に難しいが、皆さんと一緒に考えていきたい。

委員

民生委員を務め11月で18年となる。高齢者を支えなければならない民生委員としての使命がある中、高齢者分野は複雑多様化している。活動も大変であり、民生委員も1期で終わってしまい、継続性が保たれないことは残念。高齢者を支えるために将来の民生委員を育てていくことも重要ではないかと感じている。社会福祉協議会なども含め、福祉全般を通して暮らしやすい福祉のまちづくりを計画策定の中で一緒に考えていきたい。

会長

日頃、福祉業務に直接携わり感じる意見はとても貴重である。今後もぜひ貴重なご意見をお願いしたい。

委員

これから策定を進めようとしている総合計画は、民間企業でいうところの長期経営計画にあたる。世の中の流れが速いので、民間は3年間の計画期間が主流。市の総合計画は民間のそれとは意味合いが違っていると考えているが、5年間という基本計画は長いので、市民の共感を呼ぶような計画づくりの工夫が必要。

大型商業施設の内容もしかりだが、インパクトを持たせ、市民にとっても夢のあるビジョンやキーワードを盛り込み、手に取って読んでみたい計画が策定できれば良いと考えている。

人口減少問題に関する自治体の取組みは一時期に比べると全国的にトーンダウンしている感がある。日本全体の人口が縮む中、須坂市は人口を増やす政策でいくのか、無理して増やさず減っていく中でも素晴らしいまちづくりを進めていくのかビジョンとして検討していく必要はある。最終的には雇用や産業が重要である。安心して働け、収入が生み出される場所があれば自然と人は集まってくる。そういう意味では産業振興は大変重要ではないかと思っている。

委員

須坂市のまちづくりには様々な面で関わらせていただいている。大型商業施設関連の政策以外にも、伝統的建造物群保存地区の取組でも大きくまちづくりのあり方が変わっ

てくると考えている。

また、安全・安心のまちづくりも重要なキーワード。人口減少の中で、心のゆとりにつながる真の安全安心とは何かについて考えていくことは大変重要ではないかと思っている。

会長

土本委員からも話のあった「安全・安心」は計画策定の上での一つの重要なキーワードになるだろうと考えている。「安全・安心」以外にも総合計画のキャッチコピーを皆で考えていきたい。

委員

総合計画は市民にとって「夢がある」ものでなければならない。この計画の下、皆で頑張ったら安心安全や明るい須坂市になるのだという確信の持てるような計画づくりをしていくべき。

人口減少や厳しい財政状況は当然対処していかなければならない問題だが、タイトな面を全面に出した計画ではなく、市民が皆で頑張る目標となるような、確信を持って施策に取り組めるような計画になることを望んでいる。

会長

時間の都合で全員の委員の皆さんのご意見をお聞きできなかったが、次回以降はぜひ皆さんのご意見をお出しいただきたい。

③ その他

副市長

本日、委員の皆さんから貴重なご意見をたくさんお出しいただき感謝している。これから総合計画策定について審議していただく上で、須坂市の優れた取り組みや特色について委員の皆様を知っていただくことも必要であると考えている。「良い点」も「悪い点」も含め、特色が分かる資料について次回以降、積極的にお示ししてまいりたい。

政策推進課長

事務局から2点ほどお願いいたします。

1点目、今後のスケジュールについてご説明いたします。全体のスケジュールは、先ほど説明させていただきましたとおりです。

本日、第1回の審議会を開催させていただきましたが、今後、市では、現状と課題の分析を進めるとともに、市民総合意識調査や市民アンケート等により市民の皆様からご意見をお聴きして、基本構想案、前期基本計画の原案策定を進めてまいります。

第2回の審議会開催日は、後日、会長と打ち合わせをさせていただき決定いたしますが、おおむね11月下旬に開催したいと考えております。第2回の協議事項は、市民総合意識調査の進捗状況報告、基礎資料数値データの提示と説明、現行計画「第五次須坂市総合計画・後期基本計画」の進捗状況などについての説明し、基本構想案についてご協議いただく予定であります。その後、本年度から来年度にかけ幾度か専門部会、審議会を開催させていただき、令和2年（2020年）10月頃答申をしていただく予定です。

なお、お手元のスケジュールにつきましては、現在考えられる予定を示したものであり、今後、審議会等の進行状況により変更がございます。また、開催していく過程で、委員の皆様から回数を増やすなど、ご提案をいただきました場合は、別途ご相談させて

いただきたいと存じます。

2点目は、今後ご審議いただく際必要となる資料やデータの事前配付です。今後、答申をいただくまでの時間が限られていること、審議会での議論を活発にさせていただくため、資料につきましては、出来る限り事前に送付させていただく予定です。

また、審議会の開催内容はもちろん、庁内策定委員会や庁内策定ワーキンググループの内容につきましても、開催の都度ホームページで公開していきますので、ご覧いただけますと幸いです。

以上でございます。

会長

全体を通して委員の皆様から何かございますでしょうか。

—質疑等なし—

(進行を事務局へ返戻)

政策推進課長

長時間にわたりありがとうございました。

これをもちまして第1回総合計画審議会を閉会とします。

委員の皆様はお気をつけてお帰りください。

以上